

## 令和7年度第1回津島市総合教育会議 議事録

### 1 日時

令和7年8月7日（木） 午後1時55分から午後2時50分まで

### 2 場所

津島市役所 3階市長公室

### 3 出席者

構成員：日比市長、浅井教育長、小出委員、古川委員、奥村委員、畑中委員

事務局：総合政策部長、教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長兼東公園整備推進室長、企画政策課長、学校教育課長、指導主事、社会教育課長、企画政策担当職員2人

傍聴者：0人

### 4 議事

- (1) 教育に関する施策の大綱について
- (2) 津島市教育振興計画について

### 5 会議内容

○あいさつ

(日比市長)

- ・7月17日（木）は大雨により、津島駅周辺をはじめ、市内各所で道路が冠水し、各小中学校においても児童生徒の下校の対応に追われた。水害で被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、臨時で「市長からのメッセージ」の発出し、水害に遭われた方への各種見舞金や減免等の制度を広く周知するとともに、8月9日（土）、10日（日）午前9時から正午まで、市役所にて土のう袋の無料配布を実施する。
- ・毎年、県に要望している津島市民病院の東にある県の管轄である二級河川善太川の改修については、今年は7月4日（金）、10日（木）に要望したが、今回の水害のこともあり、7月25日（金）に私と地元愛知県議会議員とともに、今後の大雨に対応できるよう二級河川善太川における改修について早期に進めてもらうよう緊急要望を行った。市公式ホームページのトップページに緊急情報ということで、一連の報告の内容を掲示させていただいた。

- ・本日の議題は、「教育に関する施策の大綱について」と「津島市教育振興計画について」の2件を議題としている。「教育に関する施策の大綱」は、本市の教育が目指す基本的な方向性を示す計画であり、「津島市教育振興計画」は、「教育に関する施策の大綱」に基づき、実施していく取組などを定めるものである。いずれも、本市が現在進めている教育施策に関連する内容である。
- ・前回同様に、有意義かつ活発な意見交換をしていきたい。

(浅井教育長)

- ・8月6日(水)にTPPプログラミング大会市長杯が開催された。プレ大会を含めて3回目の開催、本大会としては2回目の開催となる。200人以上のこどもたち、教職員、保護者の方が集まり、文化会館大ホールで行った。市長には審査員もやっていただき、大学や高校、教科書会社の方にもお越しいただき、盛大な大会を見ていただいた。まさに、「楽しくて役に立つ」、「誰一人取り残さない」、「キラリと光る」津島の教育、でありTPPも少しずつ根づいてきたと感じた。
- ・本日の総合教育会議では、「教育に関する施策の大綱」と「津島市教育振興計画」策定していくにあたってのご意見を伺う。前回の策定時と異なり、保護者の方、地域の方、教職員及び各学校の児童会・生徒会を中心としたこどもたち等、幅広く意見を伺った上で、これらを策定し進めていく。
- ・本日の会議では、皆さんからご意見を伺い、さらに充実した内容にしていきたいと考えている。

## (1) 議題1 教育に関する施策の大綱について

(日比市長)

- ・教育に関する施策の大綱について事務局から説明する。

(学校教育課長)

- ・教育に関する施策の大綱については、「地方教育行政の組織と運営に関する法律の一部改正」に伴い、平成27年4月1日からの新しい教育委員会制度の発足にあたり、総合教育会議において作成するものとなっている。
- ・平成26年の法律の一部改正では、①新教育長の設置、②チェック機能の強化と会議の透明化、③総合教育会議の設置、④教育に関する大綱を首長が策定することが定められている。④のとおり、大綱については、総合教育会議において、首長と教育委員会が協議・調整を尽くし、首長が策定するとされて

いる。このことに基づき、津島市では教育の振興に関する施策の大綱を令和3年に策定しており、前回の策定から5年が経過し、事業の進展にあわせ、今後の時代の変化に対応した教育施策を展開するために、見直しを行うものである。

- ・教育理念においては、育てたい人間像を「豊かな人間性と、よりよく生きる力を身につけた人（津島っ子）」とし、子どもがより安全・安心に学ぶことができるよう教育環境を整備するとともに、さまざまな活動に取り組める機会や場を充実させていくこととした。
- ・子どもたちが自ら学び自ら考える力を育むことを基本として、知・徳・体（確かな学力、健康・体力、豊かな人間性）のバランスのとれた力＝「生きる力」を育む特色ある教育を推進し、地域の絆づくりや豊かな心の育成等双方向の連携・協働を進め、地域全体で子どもを育てていくことを、掲げさせていただいた。
- ・大綱は、国の第4期教育振興基本計画や、第5次津島市総合計画に規定する基本的な方針を参酌し、市の教育が目指す基本的な方向性を示すもの（方針）である。大綱の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間としている。
- ・現行の大綱は、第5次総合計画を踏まえ策定したものであり、体制に変わりにないため、今回策定させていただく大綱については、現行の教育大綱を維持しつつ、国の教育振興基本計画、現在、中間見直しが行われている総合計画に加え、社会情勢や事業実施の実態にあわせた形で加筆を行うものとした。
- ・総合計画は、私たちのまち津島の将来像やまちづくりの指針と目標、それを具体化するための施策を定めえおり、本市がまちづくりを市民とともに進めていくための最上位計画に位置付けられている。
- ・総合計画では、将来都市像を「未来につなぐ、住んでみたい 住んでよかったまち 津島」として、実施するために、3つのまちづくりの目標「子育てしやすいまち」、「活力あるまち」、「安心して暮らせるまち」を掲げている。
- ・総合計画の分野別計画として、学校教育、社会教育、歴史・文化・芸術について、分野別の計画が定められている。それぞれ、施策のめざす姿、現状と課題、まちづくりの指標、施策の方針が定められている。この総合計画に基づき大綱の策定をする。
- ・津島市教育大綱では、目指す方向性について、3つの方針を定めている。方針の1「次代を担う子供の育成」は学校教育課所管であり、方針の2「生涯にわたる学習・スポーツ活動の支援」、方針の3「歴史・文化の保護・継承・活用」は社会教育課所管になる。

- ・方針の一つ目の、「次代を担う子どもの育成」では、次世代を担う子どもたちがよりよく生き抜くための「生きる力」を養うため、4つの目標を定めている。
- ・目標1の学校教育では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体の育成を掲げ、「生きる力」を育てていくこととしている。学校教育の充実に加え、S K I Pの基礎体力の増強、学校給食における食育の推進、人権を尊重や、多様性を尊重し、持続可能な社会を実現するためのS D G sの考えに基づいた活動についても記載している。不登校といじめ対策において、相談体制の充実、教育支援センターの活動のことを挙げている。
- ・目標2では、令和6年3月に策定した長寿命化計画に基づき、学校施設の整備を行うこと、「家庭防災の日」を捉えた防災学習のこと、そして、教職員の「働き方改革」を推進することなどを、記載している。
- ・目標3では、津島市独自の取組みである、県内の領事館との交流事業や、タブレット端末などを活用したプログラミング教育を含めたI C T教育の推進、郷土愛を育てる取組を継続することを記載している。
- ・目標4の地域連携では、コミュニティ・スクールを核とした、「地域社会総がかり」で地域に根差した教育・学校づくりを推進することを記載している。

(社会教育課長)

- ・方針の2つ目は、市民が生涯を通じて生きがいを持って暮らすことができるように、市民の主体的な企画や運営による生涯学習・スポーツ活動の取組みを支援し、現在の大綱同様2つの目標を掲げている。
- ・目標5生涯学習では、市民の自主的な生涯学習活動の取組の支援について記載し、生涯学習情報の提供の手段として広報紙やホームページにS N Sを加えた。

(教育委員会事務局次長兼東公園整備推進室長)

- ・目標6スポーツ振興の生涯スポーツの推進については、誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、気軽に楽しむことができるスポーツと考えている。昨年度策定したスポーツ推進計画においても子どものスポーツ環境の整備とともに、市民にとって生涯にわたる学びの機会や施設を充実させる方針を示している。

(社会教育課長)

- ・方針の3つ目の歴史・文化の保護・継承・活用では、郷土の歴史・文化資源

の保護・継承・活用を通じて郷土愛を育むことを目標7に掲げている。

- ・現在の大綱では、1つ目の項目は、「長い歴史の中で培われた郷土の文化財等の把握に努め、その保存・活用の方針を検討します。」としていたが、現在、文化財保存活用地域計画の策定に取り組んでいるので、後半の部分を、「検討します。」から、「保存・活用の方針を決定し、総合的・一体的な保存と活用を進めます。」という表記に改めた。

(学校教育課長)

- ・大綱の最後の学校・家庭・地域の役割について、学校・家庭・地域と行政が相互に連携・協働して目標を達成していくこと、そして、持続可能で、だれ一人取り残さない取組を目指すこととし、郷土愛の育成を含め、豊かな人間性とよりよく生きる力を身につけた人津島っ子、を育てていくことを記載した。

(日比市長)

- ・以上の説明を受け、教育に関する施策の大綱について意見をいただきたい。

(奥村委員)

- ・市はこどもたちのために着々施策を進めている。まちづくり施策も進み、情報が出回り、いろんな意味で津島市を愛せるこどもたちが増えることを感じている。私たちができることがあれば1つずつ協力したい。

(畑中委員)

- ・本市教育の基本理念である「豊かな人間性とよりよく生きる力を身につけた人(津島っ子)」に向かっての目標設定が、心優しくてよいと感じた。スポーツ活動や歴史・文化についてもそれぞれ方針に定めてあり、取り組んでいただけだと思う。

(古川委員)

- ・学校、家庭、地域の3つの役割を総合的に管理できて、津島っ子の育成のためというのがひしひしと伝わってくる素晴らしい大綱だと感じた。
- ・これをどのように情報発信していくかポイントだと思う。こんなに素晴らしい大綱があるので、市民の皆さん一人一人に届けたい。

(小出委員)

- ・私たちは教育長からいろいろなお話を聞いたり、各学校へ行きいろいろなものを見させていただいている。その内容がこの大綱の中にほとんど入っている。すべてが網羅されていて信頼に値する。現場を知る者が作っていることがよく分かる大綱になっている。
- ・先ほど社会教育課長が、「推進しています」ではなく、「今はもう既にやっている」ことを自身で把握していて、文言を変えられている。やっていることを把握した上で大綱を作成されている。この大綱はこれから数年先、生きてくる気がする。

(浅井教育長)

- ・この教育に関する施策の大綱は本当に教育委員会の憲法みたいなもので、非常に大きな目標になっている。その中で、市長が今進めている「楽しくて役に立つ」、「キラリと光る」津島の教育、というのは、この理念が十分生きているといつも感じている。
- ・郷土愛を育てていくというシビックプライドを大事にしたい。これは文化財の保護や活用にも繋がる。
- ・津島市全体で取り組んでいる国際交流がある。領事館との交流や、ALTの人たちやネイティブのスピーチを通して国際感覚を豊かにしていく動きである。
- ・命を大切にするという面では、市民病院や医師会の協力によるがん教育を進めている。学校メンバーだけではなくて、外部講師を活用しながら授業を作っていく。総合学習のあり方みたいなものも考えていきたい。
- ・大きく進めているのが、地域と一体化したコミュニティ・スクール。今までPTAだけに頼っていたことを、市のコミュニティ協議会の重要なポジションのメンバーの中に入り、学校のコミュニティや学校運営に直接タッチし参加していただいている。コミュニティ・スクールのあり方も1つ大きいと思う。
- ・学力の尊重とともに体力を何とかしていきたいと考えている。東公園の整備計画も含めて、スポーツ振興は大きな課題である。
- ・大きな学校教育の目標の中の1つに、「誰一人取り残さない」という言葉がある。不登校対策や、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導等の教育を進めていかななくてはならない。これは、人権を尊重するまち津島だからこそ思っている。
- ・大綱にはいろいろな項目があるのでさらに具体化していきたい。

(日比市長)

- ・この大綱にはそれぞれに方針と目標が定められているので、すばらしい大綱であると感じている。これを実行していくには、職員の皆さんで頑張ってもらい、それをさらに現場の方に下ろしていくことで、磨きのかかったものになっていくのだろうと思う。
- ・この大綱の理念や方向性を末端の方まで伝えてそれが自発的に広がっていくといいと思う。古川委員がお話しされたように、これをいかに伝えるか、伝わるか、というのも大事なことである。どうすることが一番良いのかを正しく判断し、情報発信して、いろんなご意見を頂戴できるような流れができれば、ステップアップしていくのではないかと考えている。この大綱をご家庭にしっかりと届けられる、届いて伝わっていただけたらいいなと思う。
- ・いただいたご意見を参考に事業を進めて参りたい。

## (2) 議題2 津島市教育振興計画について

(日比市長)

- ・津島市教育振興計画について事務局から説明する。

(学校教育課長)

- ・教育振興計画については、教育大綱と整合性のとれたものとする必要があるため、「方針」と「取組の方向」を合わせるものと考えており、関連するため今回議題として上げている。
- ・教育振興計画は、津島市の最上位の計画である総合計画を参酌し、教育大綱の方針を踏まえ策定するものである。
- ・総合計画は現在中間見直しをおこなっているが、概ね、現行の方針が踏襲される見込みであり、振興計画についても、現行の計画を大きく逸脱するものではない。しかしながら、事業の進捗や見直しを行うものになるため、そこを踏まえ全体について説明する。
- ・前回と同様、施策のめざす姿として3つ取り組み「次代を担う子どもの育成」、「生涯にわたる学習・スポーツ活動の支援」、「歴史・文化の保護・継承・活用」を記載している。
- ・基本方針についても、大きな変更はない。「豊かな人間性と、よりよく生きる力を身につけた人（津島っ子）」を育てていきたいと考えている。
- ・教育ビジョンについては、学校、家庭・地域、行政が連携して「豊かな人間

性とよりよく生きる力を身につけた郷土愛を持ち、人権感覚・国際感覚のある”津島っ子”」の育成を目指していきたいと考えている。

- ・Ⅲ目標達成への施策として、学校教育と社会教育に分けて記載してある。1 学校教育において、(1) 目標達成への施策は①確かな学力の育成から④その他の4つの施策に分けて記載した。
- ・①確かな学力の育成では、(ウ) 外国語教育推進事業では、県内の領事館との交流事業の取組や高校との出前授業の拡大、(エ) では特別な支援を必要とする児童生徒に対応するため、スクールソーシャルワーカーの設置を新たに加え、誰一人取り残さない教育を進めていく。
- ・(カ) GIGA スクール構想の実現では、児童生徒一人1台タブレットの活用に加え、人型ロボット(ロボホン)やプログラミン可能なブロック(レゴブロック)を使用した学習の見える化を図った、楽しくて役に立つプログラミング教育を進める旨を加えた。先日行われたT P Pプログラミング大会についてもこれに基づいて実施していくものである。
- ・②豊かな心の育成では、従来からの道德教育、人権教育に加え、(カ) 郷土愛を育てる取り組みを充実させていきたいと考えている。津島愛、津島プライドなど郷土への愛着を育て、地域・社会に貢献できる人材の育成に努めていく。
- ・③健康教育・安全教育の充実については(ア) 防災教育の充実において、自分の命は自分で守る教育を進めていく。子どもたちが自ら学び、自ら考える力を育み、自己を守る能力や態度の育成に努めていく。
- ・(2) 目標達成のための重点事項として(イ) 開かれた学校とするため、学校運営協議会(コミュニティ・スクール(C S))を柱とした家庭・地域と双方向性のある連携・協働することで、活力ある学校づくりを推進していく。② 地域との連携を図るため、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進めていく。

(社会教育課長)

- ・2 社会教育分野の目標達成への施策は、現在の計画同様、①生涯学習・スポーツの推進、②青少年の健全育成、③歴史・文化の保護・継承・活用の3つとしている。
- ・①の生涯学習・スポーツの推進の、生涯学習の分野では(ア) 生涯学習事業の提供と学習成果を地域に還元する仕組みの構築、(イ) 生涯学習情報の提供、(ウ) 生涯学習を実践する場である社会教育・生涯学習施設の整備について記載している。

(教育委員会事務局次長兼東公園整備推進室長)

- ・生涯学習・スポーツの推進するための施策として（エ）スポーツフェスティバル事業から（ケ）東公園一帯整備基本構想の策定事業を目標達成への施策としている。
- ・これまで施策と位置付けていた事業に加えてスポーツ推進計画の推進事業と東公園一帯整備基本構想の策定事業を加え、スポーツ推進計画では、するスポーツの推進で、誰もがスポーツを楽しむ機会を提供する。みるスポーツの推進では、スポーツ選手の応援や試合観戦やアスリートとの交流の場を創出する。ささえるスポーツの推進では、地域、スポーツ団体、民間事業者、行政が連携しスポーツをささえる連携体制の充実を展開する。つくるスポーツの推進では、スポーツに親しめる環境を創出する。そのようなスポーツに親しむ環境づくりを進めるために東公園一帯整備の基本構想を策定している。

(社会教育課長)

- ・②青少年の健全育成では、(ア)放課後子ども教室推進事業を始め4事業について引き続き取り組んでいく。
- ・③歴史・文化の保護・継承・活用では、(ア)文化財保存活用地域計画策定事業については、大綱と同じく、現在の計画“文化財の保存・活用の方針を検討します。”から、“方針を決定し、策定した計画に基づいて、文化財の総合的・一体的な保存と活用を進める。”に変更した。
- ・(ウ)郷土の歴史的遺産活用事業では、尾張津島天王祭を学習する歴史・文化習事業「祭りを学ぶ」について明記した。
- ・(エ)堀田家住宅及び氷室作太夫家住居の管理運営活用及び整備事業では、現在氷室作太夫家住居保存活用計画策定に取り組んでいることを踏まえ、氷室作太夫家住居について“策定した計画に基づいて修繕及び活用を進める。”という記載を加えた。
- ・目標達成のための重点事項として、①市民の主体的な企画・運営を支える仕組みの構築、②青少年の豊かな心の育成、③郷土への愛着と誇りを育む、④多様性の尊重とSDGsの考え方の推進の4項目を掲げ、各施策を推進していく。

(学校教育課長)

- ・教育委員会で振興計画を作成するにあたり、現在、有識者の意見聴取をしている。有識者については、大学教授や校長先生やコミュニティ・スクールの

会長、PTAの代表の方に照会している。

- ・こどもへの意見も合わせて伺っている。これは、令和5年4月に施行されたこども基本法において、年齢や発達の程度に応じた子どもの意見表明の機会の確保や、こども施策を策定する際にこどもの意見反映を行うこと等が定められているため、これを踏まえた計画を策定したいと考えていることによるものである。現在、小中学校12校の児童会・生徒会のこどもたち中心に意見を集めている。これらの意見を踏まえて、最終的には来年2月の総合教育会議にて、教育委員会振興計画並びに教育大綱を示していきたいと考えている。

(日比市長)

- ・以上の説明を受け、教育に関する施策の大綱について意見をいただきたい。

(奥村委員)

- ・具体的な方針がよく明確にまとめてある計画だと感じた。こどもの数が減っているが、多様性に即して対応を変えていかないといけない。こどもたちのためには進めていかななくてはならない。
- ・スポーツと文化についてはいろいろ支援していただけて、私たち市民もこの年でも、文化や歴史に興味を持って講座に参加したり、スポーツについては東公園のことも含めて接する機会がある。
- ・一人でも多くの方が、津島市に対して何か1つでも愛着を持っていけるような活動ができると、より良いと感じた。こどもの意見を取り入れるのはすごく革新的だと思う。出された意見を聞きたい。

(畑中委員)

- ・プログラミング、領事館との国際交流事業等、これまで継続して実施している施策が定着してきたと感じている。
- ・津島市には郷土愛が重要だと思う。歴史や文化などがある。今は人口が流出している問題があるが、また津島市に戻ってくるといいなと思う。それにはこどもたちに郷土愛を感じていただくのが重要だと思う。
- ・こどもたちの意見にどんなものが出されるのかが楽しみである。

(古川委員)

- ・大見出しから各具体的な事業名が並び、よく網羅できている。市長がリーダーになってこれだけのことをやる、非常に具体性のある案ができたので素

晴らしいと感じた。

- ・教育関係の部署だけでこれが実現できるかどうかと思った。そうなると重点事項にあるようなものを、市民の方が主体的に、自分たちでやってもらわないととてもじゃなくて実現できないと思う。総務省の人口動態結果が発表され、ますます危機感を募らせている。
- ・私が津島市で生まれ育って、津島市にどれだけお世話になったかを紹介する。物心がつくつかない頃に、稚児行列に組み込まれ、夏の暑い中、顔を白塗りされて、木の棒を2本持ったことがある。夜の屋形船の乗せて頂いた記憶もあり、屋形船は思ったより狭いな、下が板敷で痛いな、すごく風が心地良かったな、ということ覚えてる。祭りの切り口でも何か外から見るだけじゃなくて地元の方に、そういう体験をもっとさせられたら良いと思う。
- ・私が中学生のときに、学年で2、3名が先生に引率され倉敷・広島に二泊三日に連れていただき、広島原爆ドームを見た覚えがある。私は小学校3年生のときにも原爆ドームを見ているのだが、その時はただ単に展示物を見て、非常に複雑な心境だったり、怖い思いしかなかったのが、中学生になって見たときは、かなり違う視点で見られた。津島市のおかげでいろんなことを経験させていただいた。
- ・こどもたちにも実際にやって経験してほしい思いがある。こんなに具体的な計画があるので、何とかそれが実現できるような仕組みができると、本当に魅力のある教育振興計画になるのではないかという思いで拝読した。

(小出委員)

- ・文頭に「地域社会総がかり」という、私の好きな言葉がある。総がかりというのは非常に難しいことであるが、これができたらすごく良いと思う。良いこどもたちが育つ学校というのは、一人ではなくてみんなが見る。だから、津島市民が良くなるためには、学校だけではなく、地域だけでもなく、大人だけ、こどもだけではいけない。みんなが何かを総がかりでやるということが一番大きなことである。
- ・先ほど古川委員がおっしゃったように、そこでやることが体験になる。大人もこどももみんな体験し、自分の力になる。それがまた広がっていく。この「地域社会総がかり」というこの言葉を、良い言葉にさせていただくために、この計画があるのだろうと思う。
- ・障害のある学級の指導は1人の先生だけではとてもできない。市からの支援員さんがいらっしやって、足りない部分をサポートしてくださる。それによっ

て、少しずつ芽を開いていって社会というものを知ることになる。津島市は支援が非常に進んでいる。そういった細かいところまで行っていただくのも「地域社会の総がかり」という、この合言葉あつてのことだろうと思う。これからもそんな方針でやっていただきたい。

(浅井教育長)

- ・私は教育に関する施策の大綱と津島市教育振興計画を、今までやれてきたものと、まだ課題として残っているものという意味で見ている。
- ・その中で、津島市が他の市町村に比べて進んでいるものは、例えばがん教育は断トツである。コミュニティ・スクールも尾張部では一番。他市町村はまだ立ち上がってもいないところもある。他にはTPP。プログラミングに関しては頭が2つ3つに抜きん出たのではないかと思う。地道にやってきたものとして、就学以前の指導、幼・保・小との連携。それから特別支援に関する相談活動も、津島市ほど手厚いところはないと思う。また領事館を活用した国際交流活動については他市町村がまだほとんど手をつけてない。
- ・社会教育としては、インターネットで見られる津島市デジタル博物館がある。他市町村であんまり見られないものでぜひ見ていただきたい。津島市には博物館がないので、インターネットでの博物館で対応しているところもあるが、非常に良い価値のあるものである。放課後子ども教室についても力をいれている。今進めている東公園の一体整備については、生涯スポーツという点で非常にこれから期待している。
- ・逆に、これから津島市が手を入れなくてはいけないこととして、1つは防災学習。命の尊重でがん教育は進んでいるが、防災についてはまだまだである。それから、中学校の部活動の地域展開も大きな課題として残っている。また、津島市には祭りがある。これをどう次の世代に伝えていくか。それは天王祭だけではなく、藤まつり、秋まつり、開扉祭も。祭りを学ぶというお囃子演奏会があり、学習の場もあるのだが、どう繋がっていくか大きい課題である。SNSのあり方についてどうするのかも課題である。SNSの活用方法について、そのあり方をこどもたちにアンケートを行う。最後に、津島市には図書館があるが、本離れ、活字離れが非常に大きくどう食い止めていくのか課題である。
- ・以上が成果と課題だが、これを何とかこの教育に関する施策の大綱と津島市教育振興計画の中に入れ込んで展開していきたい。

(日比市長)

- ・人工知能など技術が急速に発展してきた中ではあるが、毎年、約90万人の人口が減る時代になった。古川委員のおっしゃるようにこれだけのことをやるとなると、人手不足の話があがる。市の体制として、職員が足りないという話はよく出ている。だからといって10年、20年、30年後を見据えて、今の時点ですぐに職員の数を増やすわけにはいかないと思っている。
- ・いかに自分ごとと捉え、それぞれが主体的に動いて行動していくことが大事だと思う。これが動き始めないと、限界があると感じている。
- ・教育においても、主体的に動けるこどもたちを育てていくということが大事だと思う。そうすることで自己肯定感のあるこどもたちが自然に生まれてくるのではないかとと思っている。
- ・大谷翔平選手は、大きな目標を立て、それに向かって自分がストーリーを作りエースになるノートを作っている。こどもたちもそういう形で主体的になっていき、そしてまちを元気にするようになっていくと思う。
- ・私はプログラミング教育において、「楽しくて」という最初の設定を決めた。楽しくないことはやりたくない。楽しくて役に立つことでないといけない。
- ・それぞれの項目ごとで、楽しさを感じていただけるようなものを作り出すとすごく面白くなると感じた。それにより津島市教育振興計画ができてくるのではないかとと思う。さらに充実させていきたいと考えているので、またご指導いただきたい。皆様の意見をいただきながらこの本事業を進めて参りたい。

### (3) その他

(企画政策課長)

- ・次回の総合教育会議について、日程が決まり次第、教育委員会を通じて連絡する。